

ヨハネの福音書 第20章 29節

「イエスは彼に言われた。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。』」

日の出間もなく窓を開ける。今日は雲が少し散っている空模様だが晴れている。やや遠くの大通りからは既に行き交う車の音が聞こえてくる。活動的時間が徐々に勢いづけて流れ始める。それでも通りから距離があるせいかあまり気にならない。それよりも身近に聞こえてくるのが、鳥の鳴き声である。威嚇するような声ではなく、小鳥のさえずりだ。朝の耳に心地よく響く声だ。今日の始まりに目覚めた小鳥の生の鳴き声が耳に心地良い。

小鳥の姿は見えないが、鳴き声がしっかりと届いている。それだけで、小鳥がそこに居ることがはっきり見える。聞く耳に見え、聞くところに見えている。そこにいるのだ。やがて、鳴き声が止まる。もう、いなくなったことがわかる。どこかに飛んで行ったことが明らかだ。

見ずに信じる者は幸いだ、とイエスは言われる。聞き続けて来た御声が耳に留まり、ところに刻まれているはずだ。たとえ、そこに見えるかたちで、触れる近さでおられなくても、耳に響き続け、ところに住んでくださるお方を信じて見る幸いが確かにある。